

グローバルにSCMの最適化を図り、 物流におけるCO₂とコストの削減に取り組んでいます。

■考え方

持続可能な社会を実現するためには、物流活動から排出されるCO₂の削減は特に重要な取り組み課題です。この課題の解決のひとつとして、サプライチェーンで発生する無理や無駄を徹底的に排除することが必要です。そのために、ものの流れを可視化し、コストとCO₂を同時に把握し、ボトルネックを見つけて改善を進めています。また、一つひとつの改善、改革の連鎖が効果の拡大につながると考え、社内での情報共有や事例の水平展開を図っています。具体的な改善施策としては「お客様への直送化」「積載効率の向上」「モーダルシフト」などの活動に重点をおき、商品企画からお客様に関わる全ての部門が一丸となって環境負荷低減をさらに進めています。

■2010年度までの目標

◎物流にともない発生するCO₂排出量を前年度比1%以上削減(トンキロ原単位)

■2009年度のレビュー

国内の輸送におけるCO₂排出量を、輸送情報から把握するシステムの構築を行い、2006年度よりデータの把握を開始しました。2008年度は、システムによる可視化の範囲を、港から港、空港から空港など、グローバルな拠点間での範囲に拡大しました。これにより、拠点間での物流情報とCO₂排出情報がつながり、コスト削減とCO₂削減を同時に考えることができるようになり、今まで以上に改善が加速されることとなりました。2009年度は情報精度の向上を狙い、トラック

輸送の細分化収集のシステムを構築し、より正確なデータ集積を進めました。改善活動の結果2009年度は原単位(CO₂トン/輸送km)で2008年度比2.6%の削減を達成しました。

■今後の取り組み

お客様への直送化やモーダルシフトの推進はもちろん、把握したデータを活用して、グローバルで全体最適を考えた物流効率向上につながる改善を進めていくと同時に、グローバルでCO₂排出量を把握し、特に海外域内での把握に向けた活動を進めていきます。

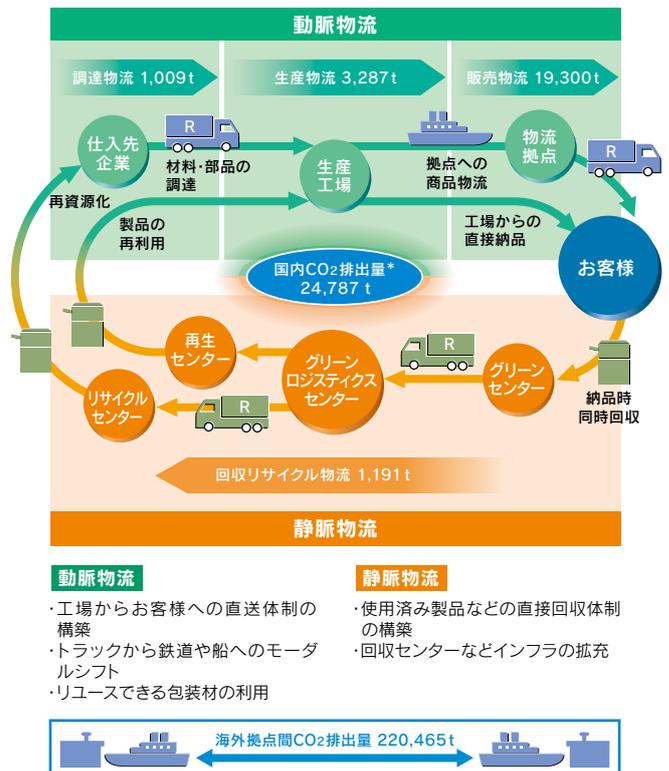
物流の環境負荷削減に向けた

サプライチェーン全体での取り組み

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループでは、調達物流、生産物流、販売物流においてもCO₂およびコスト削減の視点によるSCM(サプライチェーン・マネジメント)を展開しています。リコーグループの生産拠点が米州、欧州、中国、アジア・パシフィックの各極へと広がったことで、グローバルな拠点間輸送が年々増加しています。例えば、中国から日本への製品・部品の輸送量は月間で40フィートコンテナ約400本に上ります。米州、欧州へは月間1,000本以上の輸送が行われており、物流の効率化はグローバルでビジネスを進めるにあたっての重要な課題です。リコーグループでは、物流プロセス全体を見て「空間の無駄」「輸送の無駄」「積み替えの無駄」「梱包の無駄」の4つの視点を切り口に、包装材の見直しや混載による積載効率向上、倉庫間物流のモーダルシフト、直送化やミルクラン回収による輸送ルート最適化などの活動をグローバルで進めています。

物流におけるCO₂排出量(2009年度、リコー)



* 国内CO₂排出量は省エネ法に基づいて算出しています(2009年度実績)。

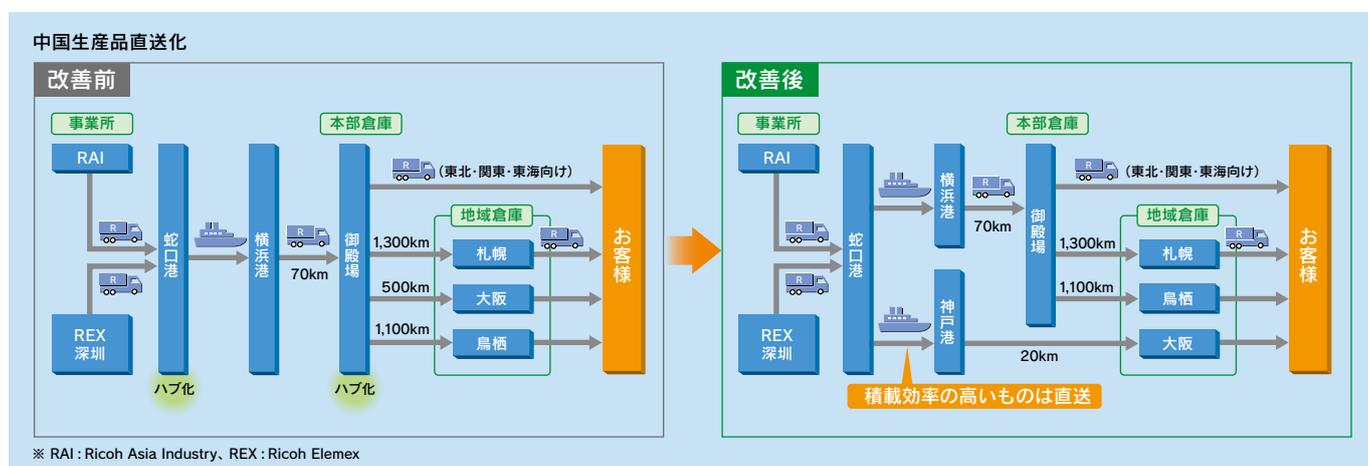
西日本向け中国生産製品の大阪直送による 物流プロセス改善

《リコーグループ/グローバル》

中国・深圳の生産拠点から日本へ送る製品は、香港に集約後、船で横浜港に送り、再度本部倉庫（御殿場）に集約して、そこからトラックで日本国内各地の倉庫へと運ばれていました。この従来の輸送ルートには、輸出入の両側に集約拠点であるハブ港を置くことでコンテナの積載効率を高く保つ狙いがありましたが、全てのシステムがハブの存在を前提に設計されているために、ある程度の物量が確保されていて積載効率が保てる西日本向け製品についても、全て横浜港経由で本部倉庫を通してあり、日本国内で長距離のトラック輸送が必要でした。このため2009年度に「ハブと本部倉庫の中抜き」を

実現するシステムを立ち上げ、神戸港経由で大阪倉庫に直送する新ルートを開設しました。西日本向けの製品は香港から神戸港に送ることを原則とし、一回の輸送量が40フィートコンテナ1本に満たない場合のみ他の国内地域向け製品と混載して従来ルートが用いられます。この改善の結果、2009年度は大阪倉庫に補充される製品全体の64.6%の大阪直送が実現し、コスト削減効果は約1,330万円/年、CO₂削減効果は約62.9トン/年になりました。

※ リコーグループでは、日本からの製品輸出ルートについても、2008年度から同様の考え方で改善を図り、成果を上げています。詳しくは、こちらをご覧ください。
<http://www.ricoh.co.jp/ecology/office/logistics/01.html>



部品のミルクラン集荷方式による物流最適化

《理光通運、リコーロジスティクス/中国、日本》

中国で華南地区調達部品を中心に、リコーグループ海外生産拠点および香港、上海、日本、北米、欧州のサービスパーツセンターへ供給している理光通運では、従来、仕入先企業からの部品を個別に納品していたため、トラックの積載効率や車両の延べ走行距離の無駄が発生していました。この改善のため、理光通運は1台のトラックで、複数の仕入先を集荷して回

るミルクラン（巡回集荷）方式を採用、各仕入先企業の集荷物量を事前に電話と専用ネットワーク回線で収集し、計画的な巡回集荷を行う仕組みを構築しました。これにより積載効率は30%から65%へと約2倍に向上し、車両走行距離も短縮されました。さらに、出荷量の大きな仕入先企業については、理光通運の倉庫を通さずに港へ直接出荷する方式も導入しました。これらの取り組みの結果、年間約310トン、35%のCO₂削減につながっています。

